

令和6年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

図工

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○手などの働きも巧みさが増し、扱うことのできる材料や活動場所も広がる一方で、程度に個人差がある。 ○話の聞き方や取り組む態度に課題がある児童が見られる。2学期以降は版画等、製作の過程を把握し段階を追って活動する題材がある。落ち着いて話を聞き、集中して製作する態度の育成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「こうするとできる」をスモールステップで伝える。のこぎり等道具の扱い方は動画や実演で伝え安心感を与える。 ○手順を視覚的に分かりやすく伝えるよう板書や掲示等を工夫する。題材によっては、個人の活動に集中できるように図工室内の環境を整えたり、担任・支援員に事前に相談したりする。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組んでいるが、継続して根気よく作りあげる経験の積み重ねが必要である。 ○決まった児童間での交流に偏りがちな児童もいる。作りながら考え、つくりかえる活動の楽しさを感じたり、認め合う体験を増やしたりしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発問の内容を工夫したり、鑑賞活動を導入で取り入れたりすることによって、児童の活動への意欲を高める。 ○グループの編成方法を各担任に相談する。協働的な造形活動を通して「みんなとだからできた・もっとやってみたい」という主体性の育成に努める。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○造形活動への興味・関心は高いが、主題をどのように表すかについて、深く感じたり考えたりする経験をさらに深めさせたい。 ○作品の造形的なよさや美しさを感じ取ったり考えたりする経験に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題をどのように表現するのか、課題のゴールを自身で決められるように支援する。また、今までの経験を振り返り、完成までの見通しをもてるような学習計画を立てて授業を進める。 ○対話型鑑賞を通して自分の思いを表現し認め合う活動を取り入れる。表現の意図など自ら感じ取り味わう楽しさを伝えていく。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○技術面や進度の差が出がちである。主体的に発想したり、工夫を重ねて表したりすることに課題が見られる。 ○完成を急ぐあまり、単純な表現に留まり活動を終わってしまう児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が「もっと取り組みたい」と興味を持続する題材の設定や投げかけを行い、必要に応じて資料を提示する。主題をどのように表現するのか、ねらいや目的を明確にするとやりたいことが見つかるので、根気よく伝える。 ○自分の感じ方の幅をもてるような発問や、授業前後のフィードバックを行い、主体的な態度を育成する。 	